

学力向上と豊かな人間性を育む

小中一貫教育の推進

～自分の考えを伝え合う児童・生徒の育成～



 豊玉中学校



 豊玉小学校



 豊玉南小学校

はじめに



豊玉地区は、学区域内に区役所や多くの公共施設があり、練馬区の中心的な役割を果たしている地域です。古くからある住宅街と商店街が混在する落ち着いた環境です。保護者や地域は、学校運営に協力的で理解を示してください。これまでも地域に根ざし地域に支えられる学校として手を携え合っていました。

今回は、練馬区の小中一貫教育の方策に基づき、「学力向上と豊かな人間性を育む小中一貫教育の推進」をテーマに、児童・生徒が互いに思いやる心を育み、自分の考えを素直に表現できる資質の育成を目指して取り組んでまいりました。小学校と中学校が連携した教育活動を通して、次第に学習意欲が向上し、豊かな人間性が育まれるようになりました。

これらの活動を通して、児童・生徒が生き生きと主体的に学習に取り組む姿勢が養われ、教師自らが授業改善の方途を探る気運が高まってきました。研究グループとして半ばの内容になりますが、日々の授業実践を通して、少しずつ児童・生徒が主体的に学習に取り組もうとする態度が芽生えてきました。今後も陰に陽にご援助・協力いただいています保護者・地域の皆様と共に、さらに充実した教育を展開してまいります。

練馬区立豊玉中学校長 井田 宗宏
練馬区立豊玉小学校長 中村 豊
練馬区立豊玉南小学校長 山田 裕

リトルティーチャー

Q リトルティーチャーって何？

A 中学生が小学校の補習授業に参加して、小学生の学習の手伝いをする活動のことです。

Q どうしてリトルティーチャーの取組をするの？

A 小・中学生が直接交流する機会をつくるためです。交流を通して、豊かな人間性の育成や考えや思いを表現する力の向上につなげたいと考えています。

Q リトルティーチャーの活動ではどんなことをするの？

A 小学校で行う、夏季休業中の補充教室に中学生が参加し、教員の補助として、小学生の学習を1対1でサポートします。

中学生になったらリトルティーチャーをやりたい。

中学生と勉強するととても楽しくて、いつもよりはかどった。

小学生に教えることで、自分自身の復習にもなってよかった。

小学生に分かりやすく教える方法について考える機会ができた。



乗り入れ授業

Q 乗り入れ授業って何？

A 中学校の先生が小学校で授業をしたり、その逆で、小学校の先生が中学校に行って授業を行ったりする取組です。

Q なぜ、乗り入れ授業をするの？

A 中学校の先生がもつ教科の専門性を生かした指導を小学校で行い、小学生の学力や体力等の向上を図るためです。

A 小学生が中学校に対して抱いている様々な不安を解消するために行います。

Q 今年の乗り入れ授業では何をしたの？

A 今年度は、中学校の体育科と美術科の先生が小学校で授業をしました。体育科の先生はハードル走、美術科の先生は絵を鑑賞する授業を行いました。



中学校の先生が見せてくれた模範演技がとてもかっこよかった。



早く中学校に行って色々な教科の勉強をしたい。

中学校体験入学

Q 中学校体験入学って何？

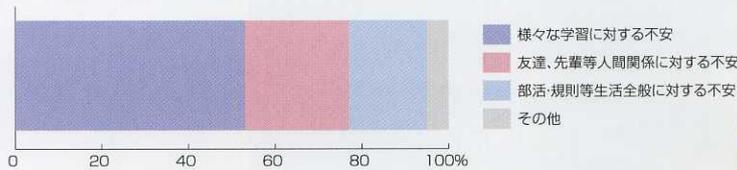
A 小学生が中学校に行き、授業見学や部活動体験、授業体験等を行う取組です。

なぜ中学校体験入学の取組をするの？

A 小学生が抱える中学校に対する様々な不安を解消するために行います。また、中学生や中学校の教員との交流を行うことも目的の一つです。

中学校体験入学では、どのようなことをするの？

A 今年度は、小・中学生を対象に行ったアンケート結果を基に活動内容を考えました。アンケート結果は以下のとおりです。



A 今年度の内容は、

- (1) 授業参観
- (2) 部活動・授業体験
- (3) 生徒会役員による学校説明

小学校で学習した内容も出てきていたので、少し安心した。



Q 授業参観では、どのようなことをするの？

A 小学生が中学校で実際に行われている授業の様子を参観します。

Q 授業・部活動体験はどのように選ぶの？

A 限られた時間の中での体験なので、あらかじめ授業か部活動かを選択します。また、授業や部活動も複数の中から選べるので、小学生の希望に添えるような体験になっています。

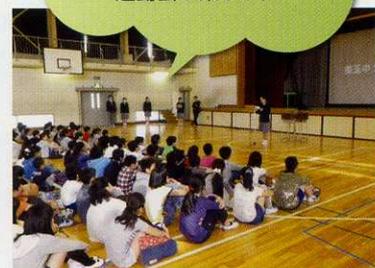
先輩たちがとても親切に教えてくれた。早く部活動に参加したい。



Q 授業・部活動体験ではどのようなことをするの？

A 授業も部活動も希望したものに参加して、中学生と一緒に体験します。体験中は中学生や担当の先生からのアドバイスを受けながら活動します。

合唱コンクールや運動会が楽しみ。



Q 生徒会役員の学校説明ではどのような話が聞けるの？

A 中学校の一年間の行事や日常生活、部活動や生徒会の役割等についての説明があります。また今年度は、小学校の児童から事前に挙げられていた疑問点や不安等についても説明がありました。

作品交流

Q 作品交流ってどんなことなの？

A 毎年2月頃に小・中学生が作った作品を交換して展示し、互いに鑑賞し合います。

Q 何のためにやるの？

A 文化的な交流は、心の交流につながると考えています。
小・中学校が学校生活の様々な場面で交流できればと思い行っています。

中学生の作品は、細かい技がたくさん使われていてすごいな。



小学生の頃の授業を思い出して、とてもうれしい気分になった。



小中合同研修会

Q 小中合同研修会って何？

A 豊玉中学校グループ3校の教員が集まり、学習指導や生活指導等についての意見交流を行う取組です。

Q なぜ小中合同研修会をやるの？

A 一つ目は、小中一貫教育の大きな目標の一つである、小・中学校9年間の学習指導の連携を高めるためです。9年間の学習を系統的に行うためには、小・中学校の教員が互いの指導方法や指導内容を知る必要があります。

二つ目は、地域全体で子供たちを育てるためです。合同研修会で互いの学校に行き来すると、その学校の子供たちの様子が分かります。たくさんの大人の目で成長を見守っていくことが、健全な成長につながります。

他にもいくつか理由はありますが、この二点が小中合同研修会を行う大きな理由です。

Q 小中合同研修会はどのように行われているの？

A 小学校と中学校の教員が合同で授業を参観し、その授業について話し合います。また、互いの学校のルールを確認したり、児童・生徒の実態を情報共有したりします。

A 今年度は年間で5回実施しました。どの学校でも最低1回は研修会を開催できるように年間の計画を立てて行ってきました。



研究の進め方

練馬区では、児童、生徒の実態から見える課題を解決する一つの方策として、小中一貫教育の取組を行っています。豊玉中学校グループでは以下3つの課題を挙げ、活動を進めました。

- 小学校、中学校間の教育内容の理解
- 児童、生徒の交流
- 生活、生徒指導における9年間を見通した細かな調整

具体的な取組、伸ばしたい力として、

「学力の向上」「豊かな人間性の育成」「かかわり合いを通じた教育活動の充実」
「自分の考えや思いを表現する力の育成」を目標として小中一貫教育を進めました。

課題改善カリキュラム

★課題改善カリキュラムとは…

児童・生徒の実態を捉え、それをもとに各教科において、9年間のつながりや学年ごとに理解させたいことを意識した学習計画のこと。

国語科

学力調査の結果から、豊玉中学校グループの子供たちは「説明的文章の読解」が弱いことがわかりました。子供たちの発達段階に応じた説明的文章の読み取り方を教師が意識することで、より効果的な授業が出来ると考えました。そこで、小・中学校の教員が何度も検討を重ねて、9年間の国語の学習の中で、いつ、何を学ぶのかをはっきりさせるカリキュラムを作りあげました。このカリキュラムをこれからの授業に活かし、子供たちの学力向上につなげていきます。



社会科

学力調査の結果から「知識、理解の定着」を目標として、小学校3年から中学校3年までの7年間を通して系統的な指導ができるようにカリキュラムを作成しました。カリキュラムをもとに指導内容が適切かなど、検証授業を行いました。「身近で、考えやすい教材」、「社会や将来に目を向けさせ、意欲を高められる教材」をもとに、子供たちの発達段階に応じて授業を行いました。検証した結果を生かし、今後も子供たちの知識、理解の定着につなげていきます。



研究の成果

- 中学校体験入学やリトルティーチャーにより、児童・生徒間の交流が進み、児童の中学校入学に対する不安がやわらぎました。
- 合同研修会や研究授業を通して、小学校と中学校の教員が互いの指導観や子供観を理解し、意見交流が活発に行われるようになりました。
- 国語科・社会科課題改善カリキュラムの作成やその検証授業、体育・図画工作の乗り入れ授業を通して、小中学校9年間の系統性を意識した授業を組み立てることができました。

これから

この2年間の取組を定着させていきます。それに加え、児童・生徒間、小・中学校教員間、児童・生徒と教員間の交流をさらに進めること、全ての教科等において9年間の学びの系統性を意識した授業を行っていきます。そして保護者、地域と学校が手を携え、児童・生徒の学力向上と豊かな人間性を育むことを目指していきます。

終わりに

9年間を見通した豊玉地区3校での小中一貫教育がスタートしました。豊玉中学校グループでは、施設が離れた中での小中一貫教育研究グループとしての2年間の研究・実践に取り組んできました。児童・生徒の実態から見える課題を解決する手立てとして、初年度は互いの教育内容の理解や、生活のきまりの違いによる細やかな調整など、推進上の課題の一つ一つに向き合うところから始まりました。小中学校合同の研修会では、3校の教員全員で授業を参観した後、分科会での話し合いが重なることに、9年間の学習の系統性を考えていくことの大切さを改めて感じました。また、中学校体験入学での部活動体験などの直接交流を通して、小学生の中学進学に対する漠然とした不安も解消していきました。

来年度からは、新たに小中一貫教育実践校として3校が一丸となり、更なる研鑽を重ねてまいります。保護者・地域の皆様に見守られる中で、9年間の学びを通して、豊玉地区の児童・生徒たちに、未来に向かって力強く翔く力を育てていきたいと考えています。

練馬区立豊玉中学校	副校長	江川 誠志
練馬区立豊玉小学校	副校長	小池 智彦
練馬区立豊玉南小学校	副校長	前田 雅也